和文抄録

小学校高学年児童を対象としたサッカーのボールを蹴る技能に関する知識の検討
−インサイドキック・インステップキックに着目して−

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119034
氏　名：長坂　奈菜美

【目的】
本研究では、小学校高学年児童が持つボールを蹴る技能であるインサイドキックとインステップキックに関する知識を調査し、その運動に関する経験による知識の差を明らかにすることを目的とした。

【方法】
対象は千葉県、東京都内小学生高学年児童 284 名とし、堀野(2020)のサッカーのボールを蹴る技能に関するアンケート調査を用いて調査を実施した。具体的には、インサイドキックとインステップキックの経験における個人が考える技術的ポイントを問う重要度問題と静止画問題で構成された調査票であった。分析の際は、クラブ経験群(92 名)、授業経験群(129 名)、未経験群(63 名)の 3 群にわけ、重要度問題、静止画問題、静止画問題における正答の場合の自由記述に基づいて、3 群間で比較、検討を行った。

【結果】
その結果、次のことが明らかになった。重要度問題では、クラブ経験群と授業経験群、未経験群で軸足に関する項目に顕著な差が見られ、経験を積むことで獲得される知識が明らかになった。静止画問題の平均得点では小学校段階での授業経験は、インサイドキック及びインステップキックに対する知識に大きな影響を与えていないことが明らかになった。静止画問題の各問題では、正答率にばらつきがみられ、クラブ経験群でも「インサイドキック角度」や「ボールを足に当てるインパクトの瞬間」について自分なりの解釈や誤った知識を持っていることが明らかとなった。授業経験群、未経験群も一定の正答率があったことから、小学校高学年児童においてもインサイドキック、インステップキックについて少なからず知識を持っていることが明らかになった。

【結論】
以上のことから、インサイドキックやインステップキックにおいて、軸足の位置は意図的に学習しなければ習得することが難しいため、それらを意図的に学習に組み込むことが必要である。